

らしは目の健康から

福岡県眼科医会などの主催による「第26回目の健康講座」がこのほど、福岡市・天神のアクロス福岡国際会議場で開かれた。

第一部では、中高年に増えている前眼部の病気・白内障と緑内障について、大分大学医学部の久保田敏昭教授が講演。日本人の失明原因の第1位と

目の健康講座

なった緑内障のメカニズムと治療法などを語った。第2部では、視力を失うこともある網膜の病気について、大阪医科大学の池田恒彦教授が講演した。最新の治療法から早期発見・早期治療の大切さなどを、約350人の参加者と共に考えた。座長は、福岡県眼科医会の荒川哲夫会長と、皆良田研介副会長。

▼第1部講師

大分大学医学部眼科学教授

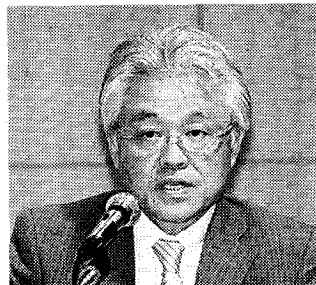
久保田敏昭氏



▼第1部座長

福岡県眼科医会副会長

皆良田研介氏



第1部

前眼部の病気—白内障と緑内障

皆良田 緑内障が専門の久保田教授に、回復が困難で失明につながる緑内障と、加齢に伴う目の代表的な病気・白内障についても、お話ししていた。

久保田 瞳の奥には水晶体があって、光は水晶体から硝子体を通して、光を感じる細胞がある網

膜から視神経を経て脳に伝わる。白内障は、この

要になる。

水晶体が濁る病気。「かすむ」「まぶしい」「ぎらぎらする」「二重三重に見える」「メガネが合わなくなる」などの自覚

症状がある。水晶体が濁ると、もう元には戻らないので、いずれは水晶体

障や目の炎症などが起こる場合もあるので、眼科での定期検査が必要だ。

緑内障は、物を見る細胞がある網膜と、その情

報を伝える視神経が眼圧

が死んでいく病気。原因にはいろいろあるが、多くの場合、眼内の房水が、隅角から排出されずにたまってしまつて眼圧

が上昇し、網膜と視神経の細胞を圧迫するなどで起こる。房水は、角膜や水晶体、硝子体など透明

症状悪化防ぎ、寿命まで自分の目を

な眼内組織に栄養を運ぶ体液で、毛様体から分泌され、隅角から線維柱帯、シユレム管を通して排出される。

この病気には、特徴的な視神経障害と視野障害がある。次第に視野の周辺部が欠けていき、最終的に中心部の視野も失い失明する。日常生活では両目で物を見ているので、片方の目に見えない部分があつても、もう片方の目が補うので、気づきにくい。また、眼圧が正常な「正常眼圧緑内障」もある。

診断は眼圧測定、眼底検査、視野検査で容易に判定できる。眼圧の正常値は、10〜20mmHg。日本眼科医会が行った調査では、40歳以上の日本人の6割弱が正常値を超えており、推定患者数は約300万人。そのうち、眼科で治療を受けている人は2〜3割で、「緑内障」に気付かない人がほとんどだった。

隅角の異常による緑内障には、異常の原因がはっきりしない「原発緑内障」、ほかの疾患に伴って発症する「続発緑内障」に気付かない人がほとんどだった。

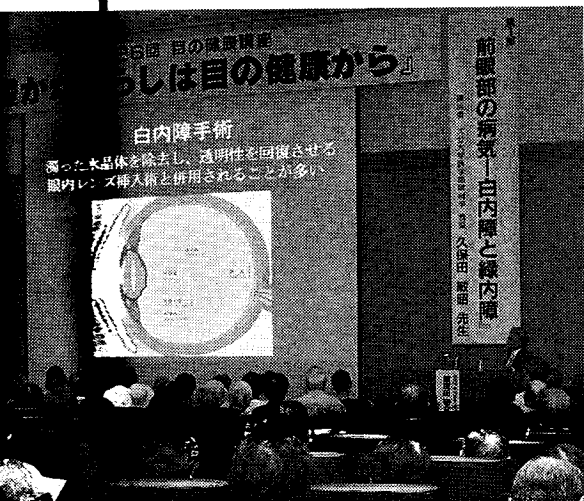
隅角の異常による緑内障には、異常の原因がはっきりしない「原発緑内障」、ほかの疾患に伴って発症する「続発緑内障」に気付かない人がほとんどだった。

隅角の異常による緑内障には、異常の原因がはっきりしない「原発緑内障」、ほかの疾患に伴って発症する「続発緑内障」に気付かない人がほとんどだった。

早期発見が失明防ぎ

白内障手術は定期検査が必

福岡市のアクロス福岡で開かれた目の健康講座



角。

閉塞隅角で眼圧が高くなると、緑内障発作とかがある。目

くんだり、頭痛襲われる。あ

全身症状の気がと分から治療が遅れる。心電図置

点眼薬のほかで虹彩に穴を流す「レー

福岡県眼科医会会長

荒川哲夫氏

氏